

4/21 佐倉支部怒りの総決起集会

日刊 勤労千葉

82,4,23

No. 1027

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・八巻) 日三三二七二〇七

三里塚・ジェット闘争拠点の誇りにかけて、佐倉支部24名の総決起で弾圧はぬ返すぞ！

千葉県警は、「本部」派組合員・小川建二のデッチ上げの「タレコミ」を利用して、わが勤労千葉への露骨きわまりない弾圧を集中してきている。すなわち、二年も前の全く何の問題もありませんごく普通の組合活動たる説得オルグ活動を、ことさら今引っぱり出して、「監禁強要」などとデタラメなデッチ上げを行い、佐倉支部の宮内執行委員をはじめ、成田・勝浦・幕張支部の他の五名の仲間に対して、二度にわたって(4/9と4/16)「任意出頭命令」なる不当な介入・攻撃を加えてきたのである。こんな悪らつな攻撃を絶対許してはならない。

ことに佐倉支部は、成田と並ぶ三里塚・ジェット闘争の重要拠点であり、それ故に、毎日毎日が右翼的なスト破り集団「本部」反動分子・土屋一派の敵対とのしをげざる対決の最先端である。広島から「短期転勤」として佐倉に送りこまれてきた動労「本部」革マル分子小川建二が、あの嶋田に勝るとも劣らぬ卑劣ぶりを発揮して、またも、有りもしない「監禁」だとか「暴行」だとかのデタラメを並べたてて、権力に弾圧を要請するという暴挙に走ったのである。

四月二十一日、佐倉支部一・二四名は、怒りをこめて、この権力・「本部」派小川建二・土屋一派一体となつての職場破壊組織破壊攻撃に対して総力をあげた反撃に起つべく、怒りの支部総決起集会を開催した。

「断じて許せない！ 支部全員の団結力ではねかえそう」 堀口支部長が決起を訴える

会場の講習室を満ばいに埋め尽して開催された支部総決起集会は、ふつふつとわかえる支部全員の怒りと熱気をはらんで開始された。

「今回かけられた権力と『本部』派一体となつた卑劣な攻撃を、支部組合員全体がしつかりとらえ、一丸となつて闘うために、本日の決起集会を成功させよう」との、能勢副支部長の司会ではじめられた集会で、冒頭あいさつにたった堀口支部長は怒りにうちふるえながら、権力およびそれと一体化した動労「本部」の反労働者性を激しく弾劾し、一・二四名支部組合員の団結と総決起を熱烈に訴えた。

堀口支部長は、「動労『本部』革マル反動分子のまたしてもデッチあげタレコミに煮えかえる怒りをおぼえる。ましてや、二年も以前の、何の変つてもない説得オルグをとらえて権力にタレ込むとは！ 81年3月のスト破りをはじめ、『本部』派は佐倉で一体どういふ事をやってきたのか。職場の既得権を全

部当局に売り渡すことのみをやってきたばかりか、今度は職場の労働者まで警察に売り渡す裏切りをやっている。二年も前の事を今頃になつてもち出してデッチあげ弾圧をしようとしている権力と『本部』革マルの目的は、今日の『国鉄労働運動をつぶせ』という攻撃のためにしかけられていることは明白だ。断じて許せない。支部全員の力で団結して必ず勝利しよう」と鮮明な決意を訴えた。

動労千葉、林、片岡両執行委員が方針提起と激励

続いて、本部を代表して、林執行委員が、「本部は十九日の闘争委員会をもって全支部臨戦・総決起体制に入ることを確認し、二二日には当該4支部を全体で包みこんで総決起集会と県警抗議・包囲の市内デモを決定・指令した。佐倉支部はその最先頭でぜひとも頑張つてほしい。」「すでにわれわれは、昨年の革マル嶋田による『6・12デッチあげ・告訴』弾圧に対し、全員が完黙・非転向で勝利し、逆に千三百の総決起をまき起こして勝利への闘いをきりひらいている。そもそもこの佐倉の職場に、動労『本部』反動分子・土屋一派が居ること自体が、こういう攻撃をもたらすのだ。今こそ積極的な総オルグで千葉内の『本部』派を解体・一掃しよう」と、それぞれ、方針提起と激励を行った。

総決起集会は、終始講習室を怒りと決意で埋め尽し、先輩者も青年部も全員が一体となつてこの攻撃にたちむかっていることを確認し、最後に不当呼び出し攻撃に対し、敢然と「出頭拒否」を貫き闘っている宮内執行委員の「あの偉大な81・3ジェットストを闘いぬいた動労千葉の拠点として、何よりも佐倉支部組合員の誇りにかけて、徹底的に闘う。動労千葉魂をかけて佐倉支部総決起で勝利しよう」との鮮明な決意表明を全員の圧倒的拍手で確認し、堀口支部長の音頭で団結ガンバローを三唱し、戦闘体制突入を確認した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！